

2006年9月号  
No. 55  
(合併第4号)

下大和田・小山町

# 谷津田だより

ちば環境情報センター・  
谷津田プレーランドプロジェクト  
TEL&FAX : 043-223-7807  
E-mail:hello@ceic.info  
http://www.ceic.info/

## 小山の自然(4)

細川 隆

千葉県立東金高校教諭

5月も半ばを過ぎると、春と初夏の生き物がそろそろ交代をする。田植えをすっかり終えた水田の周りでは、変態を終えたばかりのアカガエルが現れたかとおもうと、畦にはシュレーゲルアオガエルの鳴き声とともに卵塊も見られる。温んだ水の中をタイコウチが泳ぎ、タニシが動いた跡がはっきりわかる。ときたま、土煙があがるがドジョウの作業らしい。水面ではシオカラトンボは忙しそうに産卵行動をしている。ハルジオンからヒメジオンに替わるのもまもなくのことだろう。斜面林は若葉が生い茂った分、見られる花は少なくなっている。ヤマツツジの花が異彩を放っている林内もやがて暗くなり、開けた谷津田とは対称的な光環境になるのだろう。



復活した田んぼにさっそく住みついたアカガエル(高山)

ピックウィーッ、ピックウィーッと鳴きながらサシバが頭上を飛んでゆく、それも比較的低位を。双眼鏡が無くてその姿を肉眼ではっきりと確認できる。気をつけてみれば、胸の羽毛の模様も肉眼でわかるかもしれない。サシバは夏鳥として渡ってくる中型の猛禽類で、ヘビやカエル、ネズミなどの動物を食べるといふ。生態系の食物連鎖を考えた場合、猛禽類はその頂点に位置する。サシバが生活できるということは、それを頂点にして、ヘビ・カエル・昆虫・植物といった関係や、ヘビ・ネズミ・植物といった関係など、多くの生物の複雑な関係があることを示している。高山さんのお話では、サシバはよく観察されるという。小山町でのサシバの繁殖が確認されたなら、それは小山町の自然は豊かで、複雑な生物の関係の中で成り立っていることの証にもなる。その自然とはもちろん里山の自然という意味である。人の手がなくなった荒れた自然では、猛禽類は繁殖できないからである。これからの観察の中サシバの繁殖が確認されることを願ってやまない。

### 千葉市政出前講座のお知らせ

#### 谷津田の自然を守り育てる

かつて、130もあった千葉市の谷津田も、現在では、開発がすすみ、半数に減ってしまっています。そのため、千葉市では谷津田の保全に力をいれており、あすみが丘に隣接する小山町の谷津田も谷津田保全指定協定地区に指定されることになっています。講師の斉藤氏は、小山町の谷津田にもたびたび足を運んでくださり、保全協定をすすめてくださったお一人です。Y P P小山町の活動にもご理解、ご協力を賜っております。各地の荒れた谷津田の手入れや、貴重な動植物の調査を続けてこられたご経験から、谷津田の大切さ、保全のあり方などについてお話していただく予定です。ご興味のある方、お気軽にいらしてください。申し込みなどは不要です。

講師：千葉市環境局 環境保全推進課 主幹・斉藤久芳氏

日時：9月17日(日) 14:30~16:30 (入場は10分前までをお願いします。)

場所：あすみが丘プラザ2階 多目的室

主催：あすみが丘・まちづくりプロジェクト

お問い合わせ先：湯本(043-294-3671)



# 里山たんけんレポート

## 第 79 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」報告

2006 年 8 月 6 日(日) 晴れ

今日は下大和田の谷津田で千葉市環境財団主催のエコ体験スクールが行なわれました。

スクール参加者の付き添いの親御さんと幼児も一緒に森の中、田んぼ周りを巡りました。山の中ではクヌギ酒場に集まるカナブンやチョウ、タマムシの産卵を見ました。イチモンジチョウ、ミスジチョウ、クロアゲハ、ヒカゲチョウ、ムラサキシジミなどチョウがたくさんいました。田んぼの方ではバッタの赤ちゃん、トンボ、メダカやカエルを観察して歩きました。小さな子はメダカ捕りに一所懸命でした。(観察は変則的になりましたので、記録は 8 月 5 日資料作成の写真の撮りに来たときに見たものを加えて記載しました。)

開花植物：カントウヨメナ、ハキダメギク、タカサブロウ、セイヨウタンポポ、ヘクソカズラ、キツネノマゴ、トキワハゼ、アゼナ、トウバナ、セリ、カノツメソウ、コケオトギリ、シロツメムサ、カタバミ、スカシタゴボウ、イヌガラシ、ヨウシュヤマゴボウ、イヌタデ、シマスズメノヒエ、ジュズダマ、ツユクサ、ヤブガラシ、オモダカ、ヘラオモダカ、タラノキ。

野鳥：アオサギ、コジュケイ、キジバト、ホトトギス、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ。

昆虫：アジアイトトンボ、オオイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ、ウチヤマ、オニヤンマ、アオスジアゲハ、アゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ムラサキシジミ、イチモンジチョウ、ミスジチョウ、ルリタテハ、オオムラサキ、ダイミョウセセリ、ホソバガ sp (ヒトリガ科) ミスジツマキリエダシャク、カナブン、カブトムシ、カミキリムシ sp、タマムシ、キマワリ、オオヒラタシデムシ、ヒメギス、コバネイナゴ(子)、オカマキリ(子)、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、スベバハゴロモ、ベッコウハゴロモ、アオバハゴロモ、ドロバチ sp、ジガバチ、ホソアシナガバチと巣、キボシアシナガバチと巣、マルカメムシ、ハラビロヘリカメムシ。

クモ：コガネグモ、ナガコガネグモ、ヘリグロサツマノミダマシ。

その他：ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、メダカ、ドジョウ、ギンブナ、マルタニシ、オオタニシ、カワニナ、ミスジマイマイ、ザリガニ。

(参加者 大人 6 名、小人 3 名 報告：網代春男)

## 第 61 回 下大和田 YPP「田んぼの守り神、かかしを作ろう！」 2006 年 8 月 20 日(日)晴れ

連日の猛暑が一段落し、谷津にさわやかな風が吹き、気持ちよくなかしく作りができました。

参加者は親子連れが多く、子どもたちのにぎやかな声一杯。6 日に行われたエコ体験スクールに参加して下大和田が気に入った子どもたちがまた来てくれたのはとてもうれしかったです。

かかしづくりの前に、みんなで恒例のモミ数カウントによる収量調査をしました。1 つの穂に 100 前後もモミが付いているのを数え間違えないように子どもたちも顔は真剣。たくさんのデータを集めてくれました。3 畝(約 100 坪)のコシヒカリ田んぼでどのくらいのお米が取れるか予想してもらったところ、十何人くらいが 1 年食べる分では?という人がほとんどでした。実際にはこれが 2 人分もないことを知ってみんなびっくりしていました。今年は例年よりもモミのつき方が少ないことがわかり、日照不足の影響が明らかになりました。

かかしづくりは家族を中心にグループに分かれ、全部で 8 体のかかしを作りました。竹を組んだ骨組み作りでは、子どもたちがのこぎりやなたに挑戦。なたで竹がきれいに割れると歓声が上がっていました。持ち寄った古着を着せて思い思いのかかしが出来上がっていきます。最後に顔を描いて完成。それぞれ表情豊かなかかしになり、グループごとに記念撮影をしてから田んぼに置きました。



終了後、鳥よけテープも張り、田んぼがとてもにぎやかになりました。さわやかな風を浴びてかかしも気持ちがよさそうでした。

(参加者 大人 17 名、幼児 1 人、小・中学生 12 人 報告：高山邦明)

## 第13回 小山町自然観察会とかかしづくり

2006年8月27日(日) 晴れ

定例の自然観察はあざみ谷津を散策しました。蝉時雨の主はツクツクボウシに替わり秋に向かっていることを実感します。あちこちにまだ小ぶりのジョロウグモが網を張っているのをじっくり観察。網にちゃっかり住み着いているイソウロウグモを見つけました。リンドウ広場に戻ってかかしづくり。2つのグループに分かれ、子どもたちが中心となってかかしの衣装を選び、竹を切ってひもで十字結わえ、刈った草で体にふくらみを持たせた衣装を着せて、最後に顔を描いて出来上がり。大きなかかしをみんなで田んぼに運んで立てました。稲刈りまであとひと月。しっかり田んぼを守ってくださることでしょう。



(参加者 大人 10名、小学生 5名、 報告：高山邦明)

開花植物：アキノタムラソウ、アゼナ、エノコログサ、オモダカ、キツネノマゴ、コヤブラン、ツククサ、ツルボ、トコロ、ヒメジョオン、ヘクソカズラ、ヤブマオ。(9/2にはさらに、アキカラマツ、オオアレチノギク、カラスウリ、クズ、セリ、センニンソウ、タイアザミ、タカサブロウ、ツリガネニンジン、ヌスビトハギ、ヒヨドリバナ、ミズヒキ、ヨウシュヤマゴボウ、ワルナスビ)  
野鳥：キジバト、ヒヨドリ、メジロ、ツバメ、シジュウカラ。  
昆虫：アオスジアゲハ、キアゲハ、ジャコウアゲハ、クロアゲハ、セスジスズメ幼虫、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ノシメトンボ、マユタテアカネ、オニヤンマ、クマゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、ヒメギス、オンブバッタ、シヨウジョウバッタ、ウマオイ。  
クモ：アシナガグモ、イソウロウグモ、オオシロカネグモ、コクサグモ、ジョロウグモ、ナガコガネグモ、ドヨウオニグモ。  
その他：ニホンアカガエル

## 谷津田・季節のたより

### 下大和田

- 8月 5日 (土) ウチワヤンマ初記録(網代)。
- 8月 9日 (水) 台風の豪雨で畦があちこち決壊(金谷)。
- 8月10日 (木) 田んぼの草取り。コシヒカリの穂は頭を垂れているものもあり、生育は順調の様子。雨上がりのためか「カブトムシ」がたくさん群がっていた(石橋)。
- 8月11日 (金) 畦の脇ではタコノアシが咲き始め、森ではツクツクボウシが鳴き出す。サトキマダラヒカゲが新たに発生。綺麗な個体がいっぱい出ていた。キタテハも綺麗な個体が6頭かたまって吸水。アオサギの姿あり。一年中居ついている模様(網代)。
- 8月20日 (日) 黒米が出穂・開花(高山)。

### 小山町

- 8月 4日 (金) カブトムシ飼育場所づくり。みつけたカブトムシ数匹、クワガタムシ1匹をできあがった飼育箱へ。コシヒカリの出穂確認(松下)。
- 8月 5日 (土) ジョロウグモの幼体出現。アキカラマツの花も(高山)。
- 8月16日 (水) 谷津のかなり高い上空をサシバが3羽旋回。(松下)
- 8月19日 (土) 黒米が出穂・開花(高山)。
- 8月20日 (日) 畑の完熟トマトにカブトムシが数匹集まっていた。(齊藤)
- 8月25日 (金) 草刈り作業中、オケラ数匹が休耕田の土の中に。アオイトトンボも休耕田のアシで羽を休めていた。(松下)
- 8月26日 (土) 夜の谷津にたくさんの虫の鳴き声。スズムシの声も(高山)



卵をいっぱい抱えたサワガニ(小山にて：高山)

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPの活動は大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)

ご注意: ・車で来られる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などに置かないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

\* 田んぼや畑は地元の方の大切な私有地です。観察会以外にむやみに立ち入らないようにお願いします。また、貴重な動植物の捕獲、採取は控えてくださいますよう、ご協力をお願いします。動植物の移入も厳禁です。

### 第64回 YPP 谷津田プレーランドプロジェクト

#### 「みんなでサクサク、コシヒカリの稲刈り！」

いよいよ稲刈りの季節です。まずは5月に植えたコシヒカリを刈ります。日照不足で例年よりもちょっと実りが少ないようですが、しっかり穂が垂れています。今年は今までの倍以上の広さがありますので、多くの皆様のご協力をお願いします。

日時: 2006年9月17日(日)10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円

持ち物: 弁当、飲み物、敷物、長靴、着替えなど

参加費: 300円(保険・資料代など)

共催: ちば・谷津田フォーラム(ホームページ <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>)

### 第14回 小山町自然観察会とコシヒカリの稲刈り

狭い面積の田んぼですが、稲穂も垂れさがり、少しずつ黄金色になってきています。小山町YPPの田んぼではじめての収穫となります。ぜひ、ご参加ください。

日時: 2006年9月24日(日)10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(当日、集会所前に案内を出します)

持ち物: 長靴、着替え、飲み物、軍手など

参加費: 100円(保険・資料代など)

### 第81回 下大和田10月の谷津田観察会とごみ拾い

秋の花、果実の盛り、秋を満喫して散策しましょう。

日時: 2006年10月1日(日)10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など

参加費: 300円(保険・資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム

共催: ちば環境情報センター

編集後記: ・いよいよ秋の農繁期のはじまり。下大和田も小山もコシヒカリ、古代米の稲刈り、脱穀、籾すりとは忙しくなりそうです。折しも田んぼの周りは秋の花盛り。気持ちのよい汗を流しにぜひお出かけ下さい。(高山)

・たくさんのトンボが空を飛び、休耕田だった田んぼにも産卵しにきて来ています。先月、作ったかかしに守られながら、稲穂も日ごとに黄金色になり、収穫の時を待っています。これも復田作業にご協力くださったみなさん、そして、いろいろとアドバイスくださった地元の方のおかげです。ありがとうございました。(松下)